

施策マネジメントシート

基本施策名	2 2 市街地整備の推進(国立駅周辺地域・富士見台地域整備)	施策統括課	国立駅周辺整備課	氏名	北村 敦
政策名	7 都市基盤	主な関係課	工事担当、富士見台地域まちづくり担当、生涯学習課		

1 施策の目的と指標

対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等

・市民
・市内全域

対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 人口	人
イ 市域面積	km ²
ウ	
エ	

施策の目的

それぞれの地域の特性に合った都市機能の整備が行われ、利便性や快適性、防災面からみた安全性を兼ね備えた良好な市街地を形成します。

成果指標(意図の達成度の指標)数字は記入しない

名称(展開方向ごとに記載)	単位
1 ア 国立駅周辺まちづくり事業の進捗率	%
イ 旧国立駅舎及びその周辺で活動に参加した人数	人
2 ア 富士見台地域の居住人口	人
イ	
3 ア	
イ	
4 ア	
イ	

2 第1次基本計画期間(平成28～35年度)内における取組内容

施策の展開方向	目的	手段(具体的な取組内容)
1 回遊性のある国立駅周辺地域のまちづくり	文化財である旧国立駅舎を中心とする国立駅周辺地域を、回遊性のある空間とすることにより、国立市の魅力を高めめます。	国立駅北口、南口の駅前広場整備、国立駅周辺の道路整備等を進めることにより、だれもが歩いて街を楽しめる回遊性のある空間を創出します。 市民に必要な機能を有する公共施設整備を進め、それらを中心に「市民が集い、来訪者を迎え、にぎわいと交流のある」空間を創出します。 文化財である旧国立駅舎を再築し、国立大学町のまちづくりの歴史を今に伝え、市への愛着を醸成するとともに、国立駅周辺の景観構造を回復し、「まちづくりの駅」として、まちの回遊性を高める役割を担う拠点として整備します。
2 だれもが住みやすい富士見台地域のまちづくり	富士見台地域を、少子高齢社会に対応した、だれもが住みやすい理想的な住空間とし、若い人も若くても安心して暮らせる地域とすることにより、国立市の魅力を高めめます。	地域住民、UR都市機構、東京都と協働して、まちづくりの方向性を協議します。 富士見台地域における、公共施設の再配置の検討を行います。
3		
4		

3 総事業費・指標等の実績推移と目標値、実績状況把握

単位		数値区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	目標達成度			
対象指標	ア	人	見込み値 74,558	74,541	74,511	74,459	74,415	74,440	74,293	74,145	73,965	目標達成度			
		実績値	74,558	75,054	75,466	75,932									
	イ	km	見込み値 8.15	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15	達成・ 未達成	前年度 比較	
		実績値													
ウ	見込み値														
	実績値														
エ	見込み値														
	実績値														
成果指標	展開方向1	ア	%	成り行き値 38.9	51.3	55.3	66.1	68.2	74.8	85.4	87.2	89.8	達成	維持	
			目標値	39.6	50.7	54.3	65.0	67.4	69.3	71.4	80.5	86.1			
		実績値	39.6	50.7	54.3										
		基本計画における 指標の説明又は出典元		『国立駅周辺まちづくり基本計画』でまとめた事業の事業費ベースの進捗率を基に設定しました。											
	イ	人	成り行き値 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	達成	維持	
		目標値	0	0	300	500	750	1,000	30,000	60,000	100,000				
	実績値	0	0	373											
	基本計画における 指標の説明又は出典元		検討等に参加する人数、国立駅の乗降客数を考慮して設定しました。												
	展開方向2	ア	人	成り行き値 17,184	16,983	16,781	16,565	16,332	16,093	15,854	15,616	15,359	達成	維持	
			目標値	17,184	17,200	17,200	17,200	17,200	17,200	17,200	17,200	17,200			
		実績値	17,184	17,427	17,730	17,742									
		基本計画における 指標の説明又は出典元		本基本計画策定時に行った、地区別の人口推計では、平成31年、平成35年とも人口が減少すると推計されていることから、これを食い止め、現在の人口を維持していくことを目標としました。											
	イ	成り行き値													
		目標値													
	基本計画における 指標の説明又は出典元														
	展開方向3	ア	成り行き値												
目標値															
実績値															
基本計画における 指標の説明又は出典元															
イ	成り行き値														
	目標値														
基本計画における 指標の説明又は出典元															
展開方向4	ア	成り行き値													
		目標値													
	実績値														
	基本計画における 指標の説明又は出典元														
イ	成り行き値														
	目標値														
基本計画における 指標の説明又は出典元															
施策コスト	事務事業数		本数		5	5									
	財源内訳	国庫支出金	千円												
		都道府県支出金	千円		368,909	67,960									
		地方債	千円												
		その他	千円			19,650									
		一般財源	千円		370,381	4,337									
	事業費計 (A)		千円	0	739,290	91,947	0	0	0	0	0	0			
	人件費	延べ業務時間	時間		12,730	14,700									
		人件費計 (B)	千円		63,650	73,500									
		トータルコスト(A)+(B)	千円	0	802,940	165,447	0	0	0	0	0	0			

4 施策の成果実績値に対する評価

(1) 時系列比較(過去3ヶ年の比較) A(かなり向上)～E(かなり低下)

B:成果がどちらかと言えば向上した

(2) 他自治体との成果実績値の比較 A(かなり高い)～E(かなり低い)

背景として考えられること

- ・前年度と同様、個別事業の整備計画内容の整理が進み、具体的に事業の工程を考えることができる状況となったことによる。
- ・一方で、状況の変化により、さらなる協議検討が必要な事業も生じ、一部の事業の進捗が遅くなったことによる。
- ・富士見台地域の人口増は、地域内にある大規模マンションへの入居が徐々に進んだ影響が大きい。人口が減っているところもあるものの、大規模マンションへの入居が進んだ影響が大きく、総体として伸びる結果となった。

5 施策の現状 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？

〔国立駅周辺地域〕
 ・平成25(2013)年度にJR中央線連続立体交差事業が完了し、国立駅周辺整備事業の着手が可能となった。
 ・平成27(2015)年4月に、国に都市再生整備計画に基づく社会資本整備総合交付金対象事業として旧国立駅舎再築事業等3事業が採択された。
 ・国立駅周辺の道路整備事業に関しては、東京都の市町村土木費補助の支援を受けて行うこととなった。
 ・国立駅周辺の交通計画は、交通管理者と段階を分けて協議を行い、平成27(2015)年4月に北口駅前広場、北1号線、西1号線、西1条線(延伸部含む)の、平成28(2016)年1月に南口駅前広場、東1号線の協議を終了している。
 〔富士見台地域〕
 ・1965(昭和40)年に完成した、国立富士見台団地は、創設から50年が経過し、日本各地にある、多くの団地と同様に、高齢化率の上昇、空室率の上昇等の課題が生じている。
 ・東京都により、矢川駅の近くにある都営矢川北アパートの建て替え事業が進んでいる。居住者の高齢化率は高く、建て替え後の団地で安心して暮らすことができる環境の整備をどのようにするのが問われている。
 ・また、建て替えに伴い生じる空地を東京都から借り受け、保育園、児童館等子育て、子育て支援を中心とする施設を整備するために、東京都との協議が進められてきた。

(2) この施策に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

〔国立駅周辺地域〕
 ・国立駅周辺整備事業に関しては、各事業に対し、様々な意見がある。
 〔富士見台地域〕
 ・国立富士見台団地の住民、UR都市機構、それぞれが考える今後の団地のあり方には違いがある。
 ・建替が行われても、都営矢川北アパートの住民が安心して暮らせるよう、求める声がある。
 ・子育て、子育て支援を中心とする施設のあり方については、市民から様々な意見が寄せられている。

6 29年度の評価結果 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策の取組状況

29年度の取組状況	30年度の取組予定
・国立駅北口駅前広場の整備工事に着手した。あわせて国立駅周辺道路整備のための予備設計を行った。 ・旧国立駅舎再築事業の実施設計を行った。再築後の旧国立駅舎の活用方法について、個別ヒアリング、ワークショップ等を行い、「活用方針報告書」をまとめた。 ・高架下市民利用施設整備事業の工事を行い、30年度に開設する準備を進めた。 ・南口複合公共施設を整備するための、事業者提案を募る準備を進めたが、隣接地権者による開発事業との関係を問い直す必要が生じ、さらに検討を行うこととなった。 ・富士見台地域まちづくりに関する、個別ヒアリング、ワークショップ等を行い、「富士見台地域まちづくりビジョン」を策定した。 ・「矢川公共用地(都有地)活用計画」を策定した。計画に位置付けられた施設を建設するための敷地を、東京都から借りられることとなった。	・国立駅北口駅前広場整備工事を完了する。 ・国立駅周辺道路整備工事のための実施設計を実施する。 ・都市計画道路3・4・10号線(南工区)の電線共同溝工事を行う。 ・旧国立駅舎再築工事に着手する。再築後の旧国立駅舎の活用方針に基づき、空間デザイン、管理運営方法の検討を行う。 ・高架下市民利用施設を開設する。 ・隣接地権者と協議、検討を行い、南口複合公共施設を含めた国立駅南口駅前整備の方向性をまとめる。 ・「富士見台地域まちづくりビジョン」に基づき、大学との共同研究を行いながら、富士見台地域の重点まちづくり構想のあり方を検討する。 ・「矢川公共用地(都有地)活用計画」に基づいた施設の基本計画を策定する。

(2) 施策の全体総括(成果実績やコスト、見直しを要する事務事業等) 必要に応じて展開方向ごとに記載

総合基本計画及び29年度行政経営方針に照らして評価する

・国立駅周辺地域は、市民の利便性を向上させ、駅周辺の回遊性を高めるとともに賑わいを創出するために必要な機能を備えた公共施設を整備するために、各施設ごとの計画に沿った事務を進めた。ただ、隣接地権者による開発事業との関係を問い直す必要が生じ、さらに検討を行う必要となる事業もあった。また、人も車も自転車も行き交いやすくするために駅前広場や周辺道路の整備を進め、工事に着手した。
 ・富士見台地域では、国立市の魅力を高めるため、地域住民、UR都市機構、東京都と協働して、だれもが住みやすい理想的な住環境となるようなまちづくりを進めるために、ビジョン、計画の策定等を行った。

(1) 31年度の取組方針

・計画に則って国立駅周辺道路の整備工事を進める。
 ・旧国立駅舎再築工事を適切に進めるとともに、前年度の検討に基づき、再築後の旧国立駅舎の開設準備を進める。
 ・国立駅南口駅前を適切に整備する。
 ・富士見台地域の重点まちづくり構想案をまとめる。
 ・矢川公共用地(都有地)活用計画に基づき、基本設計を進める。

(2) 中期的な取組方針

・国立駅周辺地域を回遊性のある空間とするために、それぞれの事業を適切に進めていく。
 ・国立駅周辺道路整備は、関係機関と協議を行い、対象路線の整備を順次進める。
 ・再築後の旧国立駅舎をまちの活性化の拠点とする。
 ・国立駅南口駅前を適切に整備する。ハードソフト両面の事業を行うことにより、国立駅周辺地域を回遊性のあるまちにする。
 ・富士見台地域の重点まちづくり構想に基づき、富士見台地域の今後のまちづくりのために必要な事業を展開していく。
 ・矢川公共用地(都有地)活用計画に基づき、子育て応援機能を中心とした施設整備を進め、地域のにぎわい拠点とする。